

教育長日記 (平成25年6月10日)

青い空に浮かぶ白い雲32

—「ならぬものはならぬ」—

東大和市教育委員会 教育長 真如昌美



国体 正式種目ボウリング開催 9月29日(日)

(今日の言葉) 迷ったら基本に立ち返って考えることです (元府中市教育委員会教育長 矢ヶ崎重夫)

—文部科学省体罰指針—

5月27日文部科学省の有識者会議は、体罰に頼らない部活動の指導ガイドラインをまとめ、下村文部科学大臣に提出しました。その中で、「体罰を厳しい指導として正当化することは誤りである」「指導者と生徒の信頼関係があれば許されるとの認識は誤り」「勝つことのみを重視し、過重な練習を強いないようにする」など明記されました。

また、指導者は生徒の身体的・心理的状态を把握したうえで指導し、厳しい言葉や重い負荷を与えた後は、きちんとフォローするよう指摘。特に負担がかかりやすいキャプテンには留意が必要としました。

東大和市教育委員会は、平成24年度中学校で2件の体罰があったことを東京都教育委員会に報告しました。

5月23日、東京都教育委員会は、体罰の根絶に向け、平成24年度都内全公立学校の体罰調査の結果をまとめ、学校名や一部概要を公表しました。

学校だけでなく保護者にも「体罰は許されない」という原理原則を理解していただき、社会全体で「いじめ」同様、「体罰」についても根絶していきましょう。

【許されない指導】

社会通念、医学に基づいた健康管理、安全確保の点から認められがたい肉体的・精神的負荷／ 殴る、蹴る／ 長時間の無意味な正座や直立／ 熱中症を起こすかもしれない状況での水を飲ませない長時間ランニング／ 柔道で受け身ができないような投げ／ 防具で守られていない特定の部位への攻撃／ パワー・ハラスメント／ セクシャル・ハラスメント／ 身体の容姿、人格の否定／ 特定の生徒への独善的な肉体的、精神的負荷／

【許される指導】

生徒が反抗して指導者の足を蹴ったため、背後に回ってきつく押さえる／ 危険な行為をした生徒を指導するため、指示に従わない生徒の腕を引っ張る／ 遅刻を繰り返す、計画通りに練習をしない生徒を試合に出さず、見学させる／ 生徒に理解させたうえでバレーボールのレシーブ、柔道の受け身の練習を繰り返す／

学校だよりの第一面

学校だよりの第一面は、校長が四季折々の学校生活の中から、教育方針にからめて考え方や保護者・地域に伝えたいことをまとめて発信する月一度のメッセージです。

校長にとっては、普段、保護者や地域の方々とお会いすることが少ないため、この第一面はとても大事な部分で、ぜひ読んでもらいたい大切な第一面なのです。

保護者は学校の様子だけでなく、記された一文一文から、また、その行間に込められた思いや校長の人柄まで感じ取っているはず。ですから、読みやすく紙面が構成されていて、読み終わった後で、我が子に話をしてあげたいような内容だと、親から子へのぬくもりのある教育へと発展していきます。

先月末、市内の校長から、「6月号は副校長に書かれますので、下書きを見てアドバイスをもらえますか」という依頼がありました。その後、どんな学校だよりになって出てくるのか楽しみにしていたら、その学校ならではの内容で、紙面にもメリハリがありとてもよい学校だよりが届きました。ホントにうれしかったです。



デモ行事スポチャン
開催 9月22日(日)